

**「変わりたい!」人の
逆転メソッド
TOEIC[®]テストは
「30秒」を続けなさい!**

鈴木清一郎

Seiichiro Suzuki

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This publication is not endorsed or approved by ETS.

マガジン

「変わりたい!」人の 逆転メソッド TOEICテストは 「30秒」を続けなさい!

鈴木清一郎

Seiichiro Suzuki

鈴木清一郎 (すずき せいいちろう)

現在、世界有数の外資系メーカーのマーケティング部門に勤務するビジネスマン。大学卒業後、2度のニートを経験した末に、「留学経験なし」「英語の勉強ギライ」の状態から独自のメソッドを開発して、英語学習法・外国人とのコミュニケーションの秘訣を身につける。TOEICテストのスコア915点(リスニング満点)取得後、複数の外資系企業にてマーケティング業務に従事し、現在に至る。日々、「英語力」とともに、日本人に必要な「コミュニケーション力」の向上を提唱している。

「変りたい!」人の逆転メソッド TOEIC®テストは「30秒」を続けなさい!

2011年12月22日 第1刷発行

著者	鈴木清一郎
発行者	石崎 孟
発行所	株式会社マガジンハウス 〒104-8003 東京都中央区銀座 3-13-10 受注センター ☎ 049-275-1811 書籍編集部 ☎ 03-3545-7030
デザイン	高橋秀幸 (TOPPAN TANC)
印刷・製本所	凸版印刷株式会社

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This publication is not endorsed or approved by ETS.

©2011 Seiichiro Suzuki, Printed in Japan
ISBN978-4-8387-2368-3 C0095

乱丁本・落丁本は購入書店明記のうえ、小社製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。定価はカバーと帯に表示してあります。
本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)は禁じられています(但し、著作権法上での例外は除く)。断りなくスキャンやデジタル化することは著作権法違反に問われる可能性があります。

マガジンハウスのホームページ <http://magazineworld.jp/>

ブローグ 英語で人生は変えられる

皆さんは、「英語で人生は変わる」と思いますか？
こう尋ねると……、

「英語なんかで、人生が変わるわけがない」

と言う人がいるかもしれません。

でも、その英語で、

人生が変わったとしたら……

他人よりも出世のチャンスが与えられたとしたら……

職を失う心配がなくなつたとしたら……

収入が上がったとしたら……

実は私の人生は、まさに英語によって劇的に変わり、そして現在も変わり続けています。しかも、そのきっかけはたったの「30秒」だったのです。

私は大学を卒業後、ある商社に入社しました。ところが、その会社は頑張った人が頑張った分だけ報われるような会社ではありませんでした。

そこで、自分の努力をなかなか認めてくれない会社に見切りをつけ、ウェブサイトを制作会社を起業しました。今考えれば若気の至りですが、当時はどうにも我慢がならなかったのです。ところが、一時は軌道に乗ったものの、すぐに売り上げが低迷し、自主廃業の道を選ぶことになりました。人生はそう甘くはなかったのです。

先行きもわからず、ただただ、さ迷っていた無職のときに、投資家のロバート・キヨサキ氏が書いた『金持ち父さん 貧乏父さん』（筑摩書房）に出会いました。

当時、無気力に陥っていた私にとって目からうろこが落ちるようなことが、その本にはたくさん書いてありました。

その中である文章に目が留まりました。人生を変えたがっている女性に対して「セールズとマーケティングを身につければ収入が大幅に上がる。これからはマーケティングを学べ」と語っていたのです。

それを見て、私は「そうだ！ これからマーケティングの時代だ！ これを学べる仕事に就こう！」と決めて、職を探し始めました。

そして、自分の実力を評価してくれそうな外資系企業のマーケティング部に職を探したところ、業界未経験ながらも入社することができました。実は、これは英語のおかげだったのです。

さらに、現在、勤務している世界有数の売り上げを誇る外資系メーカーに二つ返事で入社することができたのも英語のおかげです。

この転職によって収入は以前の倍になりました。外資系企業では連日、ヘッドハンティングの連絡が来るので、職を失う心配もなくなりました。英語で社内の評価も急上昇。自分に自信がついたおかげで、理想としていた女性に勇氣を持ってアタックでき、結婚することができました。

多くの企業、団体の人事考課で採用されているTOEICテスト

ところで、私が話している「英語」というのは、皆さんもご存じの「TOEIC (Test of English for International Communication) テスト」のことです。

私はこのTOEICテストで900点突破を30日間の勉強で達成し、その結果、前述したように自分の人生が大きく変化したのです。なぜ、私の人生が大きく変化したのか？ それは、TOEICテストの特徴にあります。

最大の特徴は、その受験者数の多さです。世界120カ国で行われ、2010年度には、受験者数は600万人を突破。約2900の企業、団体、学校で採用されており、大学の単位認定や推薦入試の要件をはじめ、企業では海外出張や駐在の基準、昇進や昇格の要件としても利用されています。

たとえば、ユニクロを展開しているファーストリテイリングは、採用時において、TOEICテストのスコアが700点以上でないと採用しないという規定を定めています。インターネットのショッピングサイトを運営する楽天は、上級管理職への昇格や昇進においてスコアが750点以上という要件を定めています。日本マクドナルドでも、海外赴任はスコア850点以上が条件です。

このように、今やTOEICテストは、多くの人が注目しているだけでなく、学校や企業、団体などの人物評価の要件や採用要件の中に組み込まれているのです。

そして、多くの企業がTOEICテストを人事評価基準の一つとして採用することによって、より高いスコアを取得することの意味が大きく変化してきました。

TOEIC®テストは多くの企業で採用されている!

TOEICスコア(点)	採用企業	昇格・昇進		海外赴任
850以上	NTTコミュニケーションズ			
800以上	住友不動産 野村不動産			日本マクドナルド
750以上		丸紅 (入社5年) 三井不動産 (入社3年)	三菱商事 (課長クラス) 楽天 (上級管理職)	
730以上	ソフトバンク	住友商事 (管理職)		住友商事 双日 丸紅 三井物産 三菱商事
700以上	NTT東日本 ファーストリテイリング 三菱電機 ヤマト運輸	伊藤忠商事 (入社4年) シャープ (課長職)	ファーストリテイリング (本部管理職)	伊藤忠商事 資生堂 シャープ みずほ証券
650以上	アサヒビール 佐川グローバルロジスティクス シチズンホールディングス	双日 (主任クラス) ソニー (係長級・課長級)	ブリヂストン (開発企画職上級)	
600以上	出光興産 王子製紙 大正製薬 大和ハウス工業 ニトリホールディングス	住友林業 (係長) マツダ (課長職)		キヤノン 大成建設
500以上		クラレ (課長級) コマツ (課長)	帝人 (課長) 三菱電機 (部長級)	日産自動車

『週刊ダイヤモンド』2011年1月8日号より 一部改変

国内行員も「TOEIC800点」 三井住友銀の総合職

三井住友銀行は今年から、総合金融の全行員約1万3千人に、英語力テスト「TOEIC」で800点以上を目指すよう求め始めた。融資などの企業向け業務に重点化し、国内の支店でも英語でのやり取りが必要になっているからだ。国内での仕事が多し、銀行では異例の取り組み。

三井住友は昨年、総合金融の全行員にTOEICを受験をすすめ、800点以上を「行員としての期待水準」とすると知らせた。東京と大阪の本店などを試験会場にして、無料で受験できるようにした。TOEICは英語力を測るテスト

トで、世界約60カ国で年間500万人が受ける、日本では2009年度に168万人が受験した。リスニングと文法解があり、990点満点。平均は500点台後半、900点は「通商関係は完全に理解でき、必考も早い」とされ、数外語狂人になるようなレベル。三井住友は計画通産のため、英語研修を実施させる。

今月下旬から、東京と大阪の本店内に30～50名の試験を受ける。平日午前7時～午後5時頃にはつても外国企業員の個人レッスンを受けるられるようする。支店の行員には外部の英会話教室の受講料を出し、外国語を勉強するようにする。

海外駐在の経験者を増やすため、今は10年後になることもある海外赴任期間を派遣5年以内にして交代を早めるほか、現地採用した外国人を本店などに配属して交流も進める。行先の英語力は派遣の条件にないが、本社が国際部門と一部部署では英語力が配属の条件になる。

三井住友は年内約700店舗、海外約30カ国・地域に約500店舗、主力強化のわけは、融資先の中小

融資先の海外

企業がアジアの新興国などにどんどん進出しているからだ。

社員が現地調査や交渉をする手企業と比べ、中小企業が海外に出る時は銀行にサポートを求ることが多い。工場をつくる時支店の行員が三井住友の海外支店と連絡を取り合い、現地の不動産や税務業者を調査したり、法務について相談したりする。

海外行員の9割は現地採用。会話は英語だ。(上原聖)

外進出に対応

■日本企業で進む「英語化」

雨天、フーストリチン	社内の公用語を英語化
日産自動車	経営会議は英語、社内資料も英語を前提
伊藤忠商事	入社後4年以内の3～5ヵ月海外で英語研修
NEC	新入社員約4人を2年目に海外研修に
クボタ	大卒以上の新入社員が1ヵ月米国で英語研修
三菱商事	入社2年間でTOEIC720以上に育成
パナソニック	管理職への研修基準にTOEICを必須とする
住友商事など	TOEICを必須を導入
資生堂化粧品	TOEIC730点以上を新卒昇進の条件に
フーストリチンでは12月1日から、英語を社内公用語とする	

融資先の海外進出に対応

『朝日新聞』2011年2月10日より

つまり、TOEICテストは一民間組織が行っている単なる英語テストではなく、社会的ステータスを持つ英語ライセンスへと変化したということなのです。

ところで、TOEICテストのスコアが採用や昇進に大きな影響を与えている事実そのものは、一見、とてもわずらわしく思えます。

今までの採用試験や昇進試験では、能力もさることながら、人柄が重視されたり、年功序列で昇進したりしてきたのですから、多くの人が、そのように思うのも当たり前です。しかし、このことを別の角度から深く考えてみると、必ずしもマイナスの面ばかりではないことに気がつくはずです。

つまり、私のような転職組や努力しているのになかなか芽が出ない人にとっては、TOEICテストによって自分の可能性を大いに試すことができる、本当の意味での自由競争の時代が到来したと言えるからです。

「暗記力」よりも「聞き取り力」「即答力」を磨く

今、日本では大変なTOEICテストブームです。書店に行くとTOEICテストのコーナーが設けられ、スコアアップのためのテキストが所狭しと並べられています。

ただ残念なことに、大半のテキストは、あなたの英語スキルをアップさせるのに、あまり役立たないと思います。なぜならば、それらの大半が、まず先に「暗記力」を伸ばそうとするテキストだからです。

「ハイスコアを目指すためには、最初に単語や文法を暗記することが重要だ！」

という思想でつくられたテキストなのです。単語を暗記して、構文を暗記して、あわよくば過去問題も暗記する……。暗記学習法に慣れている私たち日本人が、中学生のころからたたき込まれてきた英語の学習方法です。

しかし、これには大きな問題があります。

それは、TOEICテストは、英語のコミュニケーション能力を測るためのテストであるということ。つまり、問われているのは「暗記力」よりも、日常のコミュニケーションに必要な「聞き取り力」、そして、スピーディーに対応するための「即答力」なのです。

テストを一度でも受けたことのある人ならわかると思いますが、「暗記力」だけで

は相当キツイものになります。というのも、短時間に解答すべき問題が非常に多いからです。実際のテストでは、ネイティブの英語を聞き取るリスニングセクションが45分間で100問、英文の読解力をみるリーディングセクションが75分間で100問と、合計2時間で200問を休憩なしで行います。

ここから単純に計算しても、1つの質問に解答する時間は平均36秒しかないのです。途中のガイダンスを除けばさらに短くなります。もちろん、同じ問題は二度と出ませんから、過去の問題を暗記して解答時間を短くする荒業も使えません。

つまり、約30秒の中で効率的に解答するためには、「暗記力」よりも「即答力」が問われることになるのです。

日本人に足りないのは「スピード」!

たとえば、TOEICテストの文法問題で左ページのような問題があります。頭の体操程度に、30秒でちよつと考えてみてください。破線部分に、(A)から(D)の選択肢の中で最も正しい単語を入れなさいという問題です。

質問文は「アメリカの人々は、日常生活で英語を話しますか?」という文章です。

「そんなの当たり前だろ！」と言われそうですが、それを英語では何というのでしょうか？

こういう質問をすると、

「あれ？ アメリカ人ってどう表現するんだっけ？」

「まさかtheは付かないよな……？」

そして、5秒経過、10秒経過……「あつ」という間に30秒が経ち、時間切れになってしまいます。

ちなみに正解は(C)のAmericansになります。

文法的な理由としては、質問文が「Does」でなく「Do」で始まっているので、複数形の名詞となるはず。「The」を付ける場合でも複数形の「Americans」にならなくてはいけないということです。

さらに「People（人々）」は「s」を付けなくても複数形の意味を持つ集合名詞なので、通常は「American people」のように「s」を付けません。「Japanese people」にも複数の「s」が付かないのと同じ理由です。

Q: Do ----- speak English in their daily life?

- (A) American
- (B) The American
- (C) Americans
- (D) American peoples

正解を聞くと「そうだったつけ？ ヤバイ、文法を勉強しなくては……」となつて、「文法的な間違い」をなくしようと「暗記力」を鍛えるパターンに陥つてしまっています。しかし、暗記だけの勉強は続きませんし、本来、必要な英語力も身につきません。

では、どうすればいいのでしょうか？

英語、とりわけビジネス英語を使えるようにするためには、正しさを追求するよりも、スピードを追求したほうがはるかにマシです。

私たち日本人は、英語を使うとき、相手に自分の意思を伝えたり、相手の意思を読み取ったりすることよりも、恥をかきたくないという意識が先に来てしまいがちです。間違つたことをするくらいなら、じつと待つて、正しいことは何かをじっくり判断する。これが、英語を勉強するときに「正しさ」を追求する原因になっています。

しかし、何も発言しなければ意見がないのと同じです。これは、海外では一切通用しません。

とにかく正解・不正解にかかわらず、スピード重視でどんどん解いていくことが大事です。

「スピード」を体得するには1回30秒

この即答できるスピードを身につけるには、1回30秒で、同じ英語の問題を何度も繰り返し解くことです。これを繰り返せば繰り返すほど英語への慣れが高まり、目の前の英語に集中できるクセがつくようになります。

ところで、皆さんにとって「30秒」は、どんな時間でしょうか？

30秒といえば、テレビのCM2本分。「あつ」という間に過ぎてしまう時間です。ところが、30秒で自己紹介をすれば、意外と長く感じるかもしれません。自分の気持ち次第でほんの一瞬でもあり、長くも感じられる時間。それが「30秒」という時間ではないでしょうか？

30秒は、TOEICテストで英語を新たに学ぶときにピッタリの時間設定だと私は考えています。平日の日中は仕事にほとんどの神経を使い果たしてしまい、帰宅後は勉強が一切手につかなかった私ですら、1回30秒の勉強で英語への集中力が高まり、問題もスラスラと解けるようになりました。

たったの30秒という短い時間だからこそ、英語に即答する力が鍛えられたのです。

そして、瞬時に答える力が身につけば、私たちがこれまで長年学んできた英語の知識や情報も生かせるようになるのです。

しかも、「即答力」の効果はTOEICテストのスコアに表れるだけではありません。即答力が身につくと、英語の会話でも心理的な余裕ができます。すると、苦手だった英語へのコンプレックスが消えていくのです。そして、それが新たな自分への自信にもなるので、仕事に対しても今まで以上に攻めの姿勢が取れるようになります。

即答力のおかげで仕事への意欲と処理スピードも上がり、まさに「最強スパイラル」の状態です。その結果、今まで挑戦できなかったことにチャレンジできるようになり、人生逆転のチャンスまでもつかめるようになるのです。

人生もすぐに変えられる

1回30秒の繰り返しで身につく「聞き取り力」と「即答力」は、これからの先行き不透明な時代を生き抜く上でとても必要なスキルです。

急速なグローバル化とIT化が進む今、確実な答えは誰にもわかりません。

これまでの成功は、これからの成功ではなくてきます。

だからこそ、目の前にある情報からいかに素早く行動に移せるか、移した行動をスピーディーに修正し、いかに誰よりも早く正しい答えを導き出すか……。それが重要になってくるのです。

でも、即答力を身につけてクイックレスポンスができれば安心です。予期せぬ事態が起きてもすぐに対応できるので、失敗を恐れずに何事にもチャレンジできるようになります。それは日々の仕事の中でも大いに役に立つのです。

クイックレスポンスができる人は限られた時間と情報の中でも素早く行動に移せるので、上司や顧客が求めているニーズを短期間で聞き出せるようになります。当然、最初に出した結論が間違っていることは大いにありますが、その間違いをすぐに修正することで、相手からのレスポンスも早くもらえるようになるのです。

この繰り返しによって上司や顧客が満足する結論に辿りつける仕事のスキルが身につく、ビジネスでも良い結果が出て、周りの評価もアップするのです。

さらに言えば、問題に素早く対応できるスキルは、これからの人生を生き抜く上で必要になります。

東日本大震災の発生やそれに続く原発事故、史上初の円高の進行と産業空洞化、世界的な信用不安が引き起こす世界同時株安……どれも表面的に起こっている問題だけに振り回され続けたら、絶望してしまいます。

そうではなく、問題の本質をスピーディーに見極めて、自らを変化させていくこと。環境を変えようと思うのではなく、環境に適応し続けることが大事なのです。

この環境に合わせて適応し、生存し続けられるマインドを、これからご紹介するメソッドで身につけることができます。

英語力だけでなく、仕事のスキル、さらにはこれから生き抜くサバイバル・マインドまで手に入る——。まさに一石二鳥どころか三鳥の効果だが、本書で紹介しているTOEICテストの勉強を1回たったの30秒繰り返すことで得られるのです。

1回30秒から勉強が続けられる。勉強が続くと英語への集中力が高まる。集中力が高まると英語を「聞き取る力」がアップし、その場で解答できる「即答力」が身につく。即答力が身につくと膨大な量の英語でもスピーディーに「読み取る力」が強化される……。

こうして、私たちが長年学んできた英語が、短期間のうちに「TOEICテストで